



発行所  
長崎県五島市池田町1番1号  
長崎県立五島高等学校  
PTA調査広報委員会  
印刷所 才津印刷所

## 「会長職就任にあたり」

PTA会長 千代田 慎一



り、お引き受け致しましたが、私自身高校でのPTA活動の経験が無く、いきなりの会長職という事で、緊張とプレッシャーを感じておりますが、経験豊かな新役員の皆様のお力をお借りして、微力ながら一年間頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、五島高校のPTA活動では年間を通じて子ども達のより良い育成を考え、親が気軽に参加できる行事を企画、運営していきますのでよろしくお願致します。近年、携帯電話やス

平成二十五年  
度総会におきま  
して会長に就任  
いたしました千  
代田と申します。  
野口前会長様か  
らのご指名によ

高校を卒業すると、ほとんどの子ども達が五島を離れていきます。社会に旅立つ前の子ども達に、私たちが出来る事を、自分自身の言葉や行動で伝えてみませんか。早朝から遅くまで、勉強に部活動にがんばっている子ども達に、直接、愛情を注げる最後のチャンスになるかも知れません。PTA活動にご理解を頂き、子ども達の明るい未来へ向けて、保護者と学校が深く繋がったPTAを目指しましょう。



皆さんは、長崎県教育方針を知っていますか。その一節に、「学校・家庭及び地域住民は、『教育長崎』

の確立のため、自らの役割と責任を認識し、互いに手を携え、県民挙げて子どもたちを健やかに育むとともに、生涯にわたって学び続けることのできる社会実現を・・・改めて読み返し、自分自身、役員としてこれまで何かやれてきたのか反省すべきところばかりです。

私自身は役員として、多くの人との出会いができたことに心から感謝しています。出合いは新たな成長へ繋がります。特に、熱心で子どもたちに深い愛情を注ぎ、厳しく指導し、夢実現へ繋げていただいた先生方。おかげで、心身共に健全で文武両道がなされた五高生を育てていただき、心から感謝しています。

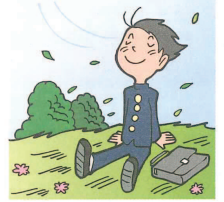
## 「PTA役員を終えて」

前PTA会長 野口 善朗

子どもを通して、私自身も学び成長しました。「あきらめない強い気持ちを持ち続けること」、「相手を信じつづけること」、「目の前の困難から逃げずに立ち向かうことの大切さ」、「先人の生きた足跡から学ぶこと」など。子どもたちも、これからの人生を切り開く、大きな力を身につけたと実感しています。

最後に、江戸時代の儒学者、佐藤 斎の言葉を紹介します。「一燈を掲げて暗夜を行く。暗夜を憂うること勿れ、只だ一燈を頼め」(文意要約：人間の叡智は代々受け継がれていくものである。自分に祖先のすべての叡智がある。自分を信じて前を向いて進みなさい。)さあ、これからも前を向いて生きていきましょう。

これまで、本当にありがとうございました。



### 高総体結果

絶対止めてやる!!

いざ!! 戦いの場へ

負けるな!! 五島っ子!!

この1球に.....

ナイスファイト!!!

金力で戦え!!

やっただぜ!! 3回戦へ進出!!

頑張れ!!

がんばれ!! 五島っ子

<b>【陸上】</b>	
○男子	200m 第5位 松尾 22秒36 (北九州大会出場)
	110mH 優勝 今村 15秒25 (北九州大会出場)
○女子	100mH 優勝 戸川 14秒64 (北九州大会出場)
	走り幅跳び 第6位 平田 5m31 (北九州大会出場)
	7種総合得点 第3位 平田 3781点 (北九州大会出場)
<b>【柔道】</b>	
男子団体戦	第3位
男子個人戦 (ベスト4以上)	
-60kg級	第3位 都々木
-81kg級	優勝 祝 (九州大会・インターハイ出場)
-100kg級	第3位 川崎
<b>【剣道】</b>	
女子団体戦	第3位
女子個人戦	ベスト8 村山 (九州大会出場)



《陸上部》  
団結

陸上は個人競技だと思われていますが、厳しい練習を乗り越えたり、試合で力を発揮したりするためにはチーム力が必要だと思います。団結力のあるチーム作りを目指します。



《男子ソフトテニス部》  
輝

私たちは1年生10名2年生4名の計14名で活動しています。モットーは楽しく時に厳しくするというメリハリをつけることです。目指せ県優勝！で部員全員で頑張ります。



《女子ソフトテニス部》  
元気

私たち女子ソフトテニス部は11人で活動しています。一人ひとりの個性が強いチームで、毎日楽しくテニスをしています。高総体ベスト4を目指して皆で頑張っていきたいと思っています。



《卓球部》  
NEW CHALLENGER

男子3名、女子3名の計6名で活動しています。目標は高総体団体でベスト8、シングルではベスト16を目指して日々の練習に励んでいます。1分1秒を無駄にせず、全力を尽くします。



《男子バレーボール部》  
跳躍

12名の部員で活動しています。チームのスローガンはspeed&sparkでスピード重視のコンヒバラーを目標に、互いに火花を散らして高め、県ベスト8に入ります。



《女子バレーボール部》  
全力で支える部

私たち女子バレー部は試合で勝つことはもちろん、様々な場面で「ガバレ」の名をよい意味で挙げていきたいです。そのために中学校生活を疎かにせず、日々の練習をがんばります。



《新聞部》  
五高新聞部、ここにあり。

今年度長崎で開催された「新聞コンクール」で「取材賞」を受賞し、来年の全国総文祭への出場を決めました。HPを立ち上げ、新聞作りにも全力を尽くしています。ぜひご覧ください。



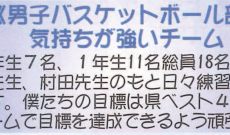
《写真部》  
active

私たち写真部は、部員25名で活動を始めました。今年度は数多くの作品展に応募することを目標とし、今後皆さんに感動を与えられるような写真を撮っていききたいと思います。



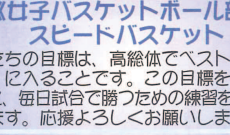
《美術部》  
世界に1つ、オンリーワンの作品づくり

美術部はたった1人ですが顧問の系山先生のご指導のもとオンリーワンの作品を制作しています。今は油絵と平行して五高祭のポスターも制作中です。高美展に向け頑張ります。



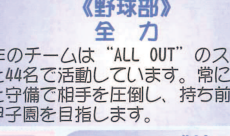
《男子バスケットボール部》  
気持ち強いチーム

2年生7名、1年生11名総員18名で顧問の杉本先生、村田先生のもと日々練習に励んでいます。僕たちの目標は県ベスト4です。このチームで目標を達成できるよう頑張ります。



《女子バスケットボール部》  
スピードバスケット

私たちの目標は、高総体でベスト8(ベスト4)に入ることです。この目標を達成するために、毎日試合で勝つための練習をがんばっています。応援よろしくをお願いします。



《野球部》  
全力

今年のチームは「ALL OUT」のスローガンのもと44名で活動しています。常に攻撃的な打撃と守備で相手を圧倒し、持ち前の粘り強さで甲子園を目指します。



《放送部》  
少数精鋭でワンランク上の校内放送を

今年の放送部は1年生1人、2年生2人の3人という少ない人数で活動しています。人数を言い訳にせず、活動を昨年よりも高いレベルで行っていききたいと思います。



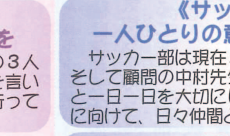
《吹奏楽部》  
一人一人が尊重され、そのらしく輝ける部活

私たちは顧問の鶴見先生の御指導のもと7月末に行われる吹コンに向けて練習に励んでいます。心に響く演奏を部員全員で作し、自分たちでできる最高の演奏で金賞を目指します。



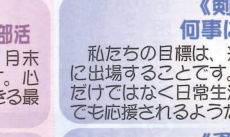
《イラスト部》  
個性あふれる部活動

今年度のイラスト部は個性豊かなメンバーがそろい、笑いのあふれる楽しい部活動です。また、個人個人の技術が高くそれぞれの個性をイラストに反映してくれたいと思います。



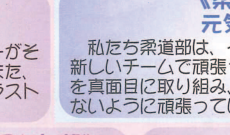
《サッカー部》  
一人ひとりの意識が高いチーム

サッカー部は現在2年生14人、1年生12人として顧問の中村先生、七條先生、竹添先生と一日一日を大切に、目標であるベスト8に向けて、日々仲間と一緒に頑張っています。



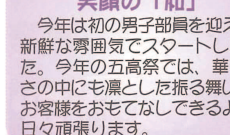
《剣道部》  
何事にも全力

私たちの目標は、来年の高総体で上位大会に出場することです。そのためには、部活動だけではなく日常生活も徹底して、誰かに頼りて応援されるようなチームになりたいです。



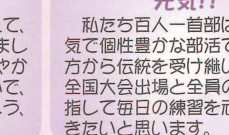
《柔道部》  
元気さ

私たち柔道部は、インターハイを目指して新しいチームで頑張っています。日々の練習を真面目に取り組み、学習面でも勉強を怠らぬように頑張っていきたいです。



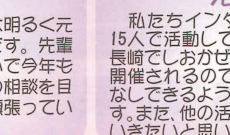
《茶道部》  
笑顔の「和」

今年初の男子部員を迎えて、新鮮な雰囲気です。今年度の五高祭では、華やかさの中にも凛とした振る舞いで、お客様をおもてなしできるように頑張ります。



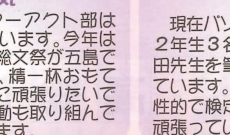
《百人一首がるた部》  
元気!!

私たち百人一首がるた部は明るく元気で個性豊かな部活です。先輩方から伝統を受け継いで今年も全国大会出場と全員の相談を目指して毎日の練習を頑張っていきたいと思います。



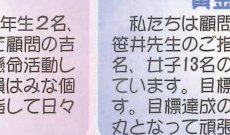
《インターアクト部》  
元気

私たちインターアクト部は15人で活動しています。今年度は長崎で開催されるので、精一杯おもてなしできるように頑張りたいです。また、他の活動も取り組んでいきたいと思います。



《パソコン部》  
個性豊か

現在パソコン部は1年生2名、2年生3名の計5名で顧問の吉田先生を筆頭として一生懸命活動しています。今年度の部員はみな個性的で検定合格を目指して日々頑張っています。



《バドミントン同好会》  
黄金時代

私たちは顧問の今庭先生、笹井先生のご指導のもと男子15名、女子13名の計28名で活動しています。目標は県大会優勝です。目標達成のためにチーム一丸となって頑張ります。



私は、在学中はバスケット部に所属していました。中学ではソフト部でしたので、バスケットの実力も授業で習った程度しかなく、周りは経験者ばかりの中で(初心者二人)先輩たちの邪魔にならないように隅の方で声を出しながら、パスやドリブルの基本から来る日も来る日も練習したの思い出があります。慣れるまでは、とてもつらく、付いていくのが精一杯でしたが、一度もやめたいとは思いませんでした。それは仲間たちのおかげだと思えます。遅れを取り戻すためには毎日残って自主練をしました。常に付き合ってくれましたし、切磋琢磨しながらがんばってました。



私は昭和六〇年四月、五高高校に入学し、中学生時代からテニス(テニス部)しかなく、高校入学後も続けることにしました。当時は、今のようになんかおもしろい道路も整備されておらず、毎日バスで一時間かけて通学しており、最終のバスの時間も一七時三〇分と早かったため、途中で抜けてバス停まで走って帰っていました。遅くまで一杯練習していた友達を羨ましく思ったこともありましたが、この年になって二十数年前の部活動の思い出を書くとは言ったものの、私の中ではどうしても汗水流して必死になって白球を追いかけて自分の姿というのが浮かんで来ません。無い頭を絞って思い出せるのは楽し



く愉快な仲間です。みんな大会前等で真剣に練習している中、何を思っていたのか急にラケットを逆さに持って打ち出す先輩がいたり、何も考えていないようである一球一球を考えてプレーしている日本一がいたり、実に楽しかったです。また、同級生の部員の中には我々の年代では誰もが記憶に残っているであろう猛者がいて、一ヶ月の間自宅までプリントを持って行ったことも今となってはいい思い出です(当人はどうか判りませんが)。



私の息子はサッカー部に所属し頑張っています。部活動を通して仲間という名の財産を手に入れた欲しいと思います。(Nさん)



卒業から三十八年たった今でも、あの一生懸命に打ち込んだ日々が懐かしく、忘れられない貴重な思い出となっています。みなさんも、人生の宝物になるような高校生活を送れるように頑張ってください。応援しています。夢はかなうけんね。(Hさん)



高総体ではスタメンに入る」という大きな目標を立て、日々の練習にもいっそう励んだものです。なぜ、あんなに夢中になれて部活に行くのが楽しくてしょうがなかったのか？卒業から三十八年たった今でも、あの一生懸命に打ち込んだ日々が懐かしく、忘れられない貴重な思い出となっています。みなさんも、人生の宝物になるような高校生活を送れるように頑張ってください。応援しています。夢はかなうけんね。(Hさん)



# 輝いている生徒インタビュー



## 2013 長崎しおかぜ総文祭

JRC・ボランティア7月31日～8月2日  
会場 福江文化会館・五島高校

### 『インターアクトクラブ活動』

はにかんだ笑顔が印象的な二人は、インターアクト部の森下楓さんと鶴瀬史織さんだ。二人はインターアクト部で1年生のころから活動している。インターアクト部の活動とは、主にボランティア活動である。毎週武家屋敷や港、学校周辺の清掃や、エコキャップ洗いなど、地元へ貢献する活動を行っている。そんな二人にもうすぐインターアクト部史上最大のイベントがやってこようとしている。全国総合文化祭である。北は北海道、南は沖縄、また震災のあった福島など全国各地からボランティア活動を行っている高校が集まり、この五島でフィールドワークや発表会を行うのだ。彼女たちはそこでフィールドワークの進行や展示会への出品、また生徒交流会の準備など多種多様な仕事を担うことになっている。そんな大きなイベントを控えて、森下さんは「全国のいろんな高校が行っている活動を学ぶことができるのが楽しみです、また五島のことを全国のみなさんに知ってもらおうとがんばっています。二人もこの機会に、森下さんと鶴瀬さんにインタビューしてみました。また、鶴瀬さんも「たくさんの方が来て、たくさん活動して、いろんな意見を聞けるのが楽しみです」と笑顔で話してくれました。これももう一つの全国のイベントで中心となって活動することに少し不安を感じているようだが、それよりも大きな可能性を秘めたイベントに向けて前向きに取り組んでいる様子を感じ取れた。現在二人は、自分たちが行った五島のクリスマス会についての展示の準備を行いながら、フィールドワークのために五島の伝統や自然を勉強し直している。「ハトマトを見たことないんです」と少し困ったように話す森下さんと鶴瀬さんだが、五島の地元へ貢献する活動を行いながら、五島のことを一から学び、全国に伝えようとする高校生がいることは素晴らしいことではないだろうか。



### 『長崎平和大使』



長崎ではこの時期になると、「長崎から平和大使が国連へ」というニュースが流れるのが当たり前になっている。しかし、ここに当たり前ではない例がある。1年4組の古賀野遥さんが「五島初」の平和大使に選ばれたのだ。全国400人の応募の中から選ばれた古賀野さんが持つ平和大使への思いとはどんなものだったのだろうか。古賀野さんが平和活動に興味を持ったのは幼稚園の頃。幼稚園のころに読んだ「おりづるのたび」という原簿の本で彼女は強い衝撃を受ける。それ以来、ずっと今まで彼女の脳裏から平和活動への思いは消えなかったという。中学時代には、福江に住む平和活動に詳しい先生に話を聞きながら高校に入り、満を持して高校生平和大使に応募する。そんな彼女の強い思いが審査員を動かし、彼女は見事に平和大使に選ばれたのだ。五島でも、もちろん小学校や中学校で平和教育が行われている。しかし、彼女がクラスメートの中に、長崎に原爆が投下された時刻を知らない人がいることが信じられなかった。「なんで知らないんだろう。なぜこんなに関心が薄いんだろう・・・」そんな思いがまた古賀野さんを突き動かしている。これからの彼女の任務は、五島で国連に届ける署名を集めることだ。長崎の浜の町などでは見慣れた署名活動の風景も、五島ではまったく新しい風景に見えることだろう。それでも彼女は「仲間を増やして署名を集めたい」とはっきりとした口調で話してくれた。「原爆で死んだ幼い子供の写真・・・それが自分だったらと思うと考えられない。こういうことが二度とあってはならないと思う」。そう語る古賀野さんが、ジュネーブの国連で話す夏がもうすぐやってくる。

### 『チャンココ』

全国総合文化祭五島地区での開会式で「チャンココ」が披露される。チャンココとは古い念仏踊りや、盆供養のため地元の集落にある墓や家々を踊りながら回る伝統芸能である。今回のリーダーである、本校2年の伊東瑞樹君と山田新一郎君に話を聞いた。  
二人ともチャンココを踊り始めきっかけは中学校の総合的な学習の時間で歴史について学び、体育祭で披露することになったことだった。今回チャンココを披露することについて、「チャンココを全国の高校生に知ってもらいたい機会だ」と誇らしげに話してくれた。また、「崎山地区の伝統芸能の一つを知ってもらおうと同時に、日本の高校生にもっと崎山の他のことも知ってもらいたい」と話してくれた。  
踊り子である伊東君は「踊りの中に緩急があり、そのメリハリや踊りのキレを見てほしい」と踊りの魅力を話してくれた。一方、大鐘担当の山田君は「かけ声を聞いてほしい。踊り子、小鐘・大鐘の鐘たたく、それぞれに違うかけ声やそのかけ合いがチャンココの見所だから。」と、それぞれに見所も異なるという。  
最後に、このチャンココ披露への意気込みについて、伊東君は「大人とは違う高校生らしい表現を感じてほしい。また、祖先の魂を成仏させるため、伝承者として気持ちよく踊りたい。」山田君は、「チャンココは地区によって違いがある。自分たちは崎山の踊りを意識して、誇りを持って勢いのある踊りを全国の人に見せたい。」  
7月31日(水)14時から本校メモリアルホールにてこのセレモニーが披露される。魂のこもった舞で総文祭を勢いづけてほしい。



## 私が教職の道を選んだ理由

校長 西川 晃 二



先日、東京石城会(同窓会)に出席して参りました。会場は、東京九段下のホテルです。地下鉄東西線の「九段下駅」下車ですが、その直前の駅には竹橋駅があります。  
学生時代、この竹橋駅には六年間通いました。毎日新聞社でアルバイトをしていたので、ラジオテレビ報道部に所属し、主にテレビ、ラジオのニュース原稿のリポートをしていました。夜中の九時から翌朝九時までの勤務でした。新聞社でのバイトは若い自分には刺激的なものであり、日々でもありました。当時の毎日新聞はまだ活字印刷の時代であり、早版のゲラはインクのおいさが強烈で、今でもそのおいさを忘れません。また、記者との会話を通して、

人生哲学を学びました。バイト中に経験した大きな事件は、まずなんとと言っても「朴大統領暗殺事件」でした。(※朴大統領とは現韓国大統領の父君)第一報は夜中の三時頃だったと思います。編集室内には、自分以外、すべて仮眠室で就寝中であり、共同通信社からの速報で走り回ったのを覚えています。しかしその時大きな失敗をしないで済ませた。回転式のFAX用紙を切らしてしまい、通信社からの記事そのものがしばらく来なかったのです。幸いすぐ気づいたもので、未受信用紙を外信部へ行き、頭を下げてもらってきたのを思い出しています。  
時間との勝負でもある新聞社の仕事はおもしろいものですが、一つのことにとどまらず取り組む魅力には欠けるように若い自分には思えませんでした。マスコへの道か教師の道かを迷っていた私は、最終的に教職を選択しました。目の前にいる生徒をじっくりと見据える仕事として、より魅力を感じたのがその理由です。

## 「五島は温かい」

五島高校勤務二度目になります。十九年前に今回と同じく長崎東高校から赴任した。その後の、過酷な環境のプレハブ校舎を経て、今の新校舎が完成し



教師 大隈 重之  
た三月に五島の地を去りました。五島は温かい。これは私の五島の変わらぬ印象です。気候も温暖であると思いますが、それ以上に人が温かいです。緑豊かな自然、四季折々の食べ物、そして純朴で素直な子どもたち。五島に戻って来れてとても嬉しいです。さて、私が、仕事以外ではまっているのが英語とトマトです。今回は単身赴任ですが、敢えて家にTVやインターネットを置いていません。ひたすら本を読み、英語の勉強にはま

っています。いつでも英語の授業に出向き、生徒の質問に答えられるようにしています。そんな質問に答えてください。それからトマト。今度あまり口にすることはなかったのですが、五島のトマトはうまい。今の季節は完熟の五島ルビーが旬です。他にもいろいろおいしい食材を使って自炊生活をエンジョイしています。先生方と力を合わせて、生徒一人一人が充実した学校生活を送れるように頑張ります。最後に私の好きな名言 Every about has a silver lining. よろしくお願ひします。

タダストレビュー(ロックバンド)、須川展也(サキソフオン奏者)。  
さて、何とぞ存知でしょうか？自慢は、高校時代に見たキャンディー48。意外なところではSKE48。コンサートは、みんなの一体感がいいですね。音楽と写真が好きな五十五歳、「毎日一生懸命」をモットーに頑張ります。

「何事も全力で」  
数学科 西藤 英和  
「何をしても、終わった後で後悔だけはしてほしくない。五島高校の生徒には、何事も全力で取り組み、どんな結果であれ、やるだけのことやっていたらいいと思いたいです。そのためには、自分自身に厳しく他人にやさしく接し、自分の心を強くしなければなりません。勉強や部活動を通して自分に磨きかけ、立派に成長してくれることを期待し、それをサポートしていきたいと考えています。」

「記憶に残る二冊を見たアーティストたち」  
事務局長 草野 雅充  
コンサートは楽しい。グレース(さだまさし)、竹内まりや、山下洋輔ジャズビバニスト、山内テツ(ロックペーウエザリポート(ジャズバンド)、ハービー・ハンコックジャズビバニスト)、ジェフ・ベック(ロックギタリスト)、CH A.R(ロックギタリスト)、渡辺香津美(ジャズギタリスト)、近藤房之介(ブルースシンガー)、渡辺直男(ジャズサクソフォン)、マンジョーネ(フュージョン)、クランゾーネ、クルセイダース(ジャズバンド)、チック・コリア(ジャズビバニスト)、SKE48、高橋真梨子、武田鉄矢、岸洋子、レイノボウロックグループ、太田博美、ギル・エバンズ(ジャズビバニスト)、日野皓正(ジャズトランペッター)、スージー・クワトロ(シンガー)、ジャコ・パス(ストリアスジャズビバニスト)、坂本龍一、奥土井美可(長崎出身のジャズシンガー)、キャンディーズ、山口修(長崎出身のギタリスト)、佐藤竹善(ロックシンガー)、ス

「Why? "I think" and "passion."」  
英語科 阿比留 憲一  
授業をして下さっている先生方は「質問する」ことの重要性にいていつも君たちに話してくれていると思います。しかし、五島高校は土日も学校は解放されており、多くの先生方が職員室で君たちの質問に丁寧に答えています。「質問する」ことには多くのメリットがあり、一つは当然ですが、わからない問題がわかるようになります。二つ目は先生方とコミュニケーションをとることができ、他にもメリットがあると思えます。それは質問するまでに自分でも「考えること」を忘れないこととです。それは幼いころに未知のもの、まだ習っていないものやと出合ったときの「なぜそうなの？」という感覚を思い出してほしいのです。「自分はどのように考えたのですが、わかりませんか。なぜそうなるのでしょうか？」ということになりませんか？  
そのような質問に対してはただその問題の解説だけでなく、その問題に対して、どう方針を立てるべきなのかと、どの段階でわかなくなっているのかなどいろいろなことがわかります。問題が解けないから、解答解説

を見てはわからないから質問に来るのでしょうか？自分自身の考えを持って来ることができれば、確実に今以上に力をつけることができます。私だけでなく、多くの先生方が君たちの質問を待っています。(私は誰にでも対応しますよ!) もちろん、"passion"もお忘れなく!!

「五島高校にきて」



英語科 山元 裕文

四月から五島高校に赴任し、生徒、先生方そして保護者の皆様のおかげで、懐かしい中にも充実した日々を過ごさせていたಿದೆ。五島高校赴任を聞いたときは、興奮と喜びで胸がいっぱいであつたにもかかわらず、初めて校門いや、城門を目の当たりにしたときは圧倒され、その巨大な門をくぐってしまうと、そのまほや大きなものに飲み込まれてしまふのではないかと、という恐ろしい感覚に襲われたのを覚えています。今では見慣れた校舎、ガラス張りの階段や現代的な校舎、プララザなど見るものすべてが新鮮で、感動的に見えました。僕は小学校の時から、ずっとバスケットボールをしてきましたが、なでしこJAPANの佐々木監督が「成功の反対は失敗ではない。何もしないことだ。失敗は成功の過程。」と言われているのを耳にしたことがあります。(フツフツ)ミラーマートのCMで聞いたのはありませぬ。また、「感謝」の反対の言葉は「当たり前」です。失敗を恐れず、生徒達の進路実現のために役に立てるよう、今あるこの素晴らしい環境が「当たり前」にならないよう、初心を忘れず、頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

「五島のパワー」



数学科 山下 乃子

五島高校に赴任して早くも三ヶ月が経とうとしています。初めて五島高校に足を踏み入れたときは、城跡に建つ校舎の小ささ、さまざまな行事での生徒たちの歌声にも力強さを感じました。(五島高校に)とっておられる先生方にとっては、まだまだのようすが、それ以外に、この三ヶ月間の多くの場面で五島生の素直さや逞しさに触れ、五島高校のパワーを感じるようになりました。五島高校への赴任が決まったときに多くの先生方から「良かったね。」と言ってもらったのですが、その意味を今まさに実感しているところです。五島の大きな期待を背負ったこの五島高校で働けることに、大きな喜びと責任を感じながら、これから、生徒の進路実現のためのサポートを一生懸命やっていますので、よろしくお願ひします。

「今を生きて」



保健体育科 橋口 史子

四月から五島の地に参りました。橋口です。三月下旬、五島高校に赴任することが決まると、前任校の先生方や知り合いの方々から「五島のここはいいよ」「あそこを知り合っているから」など教えていただき、期待を抱くと共に、その方々と離れたもどかか見守られているような感覚になりました。そして、五島高校の生徒に出会い、彼らもまた希望を抱き、大きな愛で包まれていると感じました。私は、五島の愛を受け日々成長する生徒が、まだ見ぬ世界へ羽ばたいていくための準備ができるよう、尽力したいと思っています。今だからこそ感じることに、今一緒にいる仲間や先生方とだからこそ自分の誇りを書き残すこと。または、伝えること。今

「一年目」



衛生看護科 猿渡 佑希

私が初めて五島にきて三ヶ月が経ちました。初任であるということ、また五島という地之初めて来ることもあり、不安もありましたが、地域のみならず、先生方、生徒のみならずのおおかけで、あっという間の三ヶ月間でした。五島高校に初めて来た際、一番初めに思ったのは、生徒のみならず、皆さんが挨拶を交わすこと、毎朝の登校時や、休み時間、放課後など挨拶を交わすことができ、本当に嬉しいと思います。また、明るく、何事にも真剣に取り組む生徒のみならずの姿に、私自身も頑張らなければ、と思う毎日です。教員として、社会人として一年目ですが、何事にも懸命に取り組み、生徒のみならずと共に成長できる教員となれよう、取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

「三方所目の離島」



保健体育科 杉本 誠治

四月、私は妻とともに「五島はどんなところだろう」という期待と不安が入り交じった中で五島に来ました。私の出身地は対馬で、生まれてから中学二年までの十四年間で、二十六歳か

を懸命に生きる生徒達と、そんな一瞬一瞬を大切に、日々過ごしていきます。

三十歳までの四年間を過ごしてききました。対馬は山が高く面積も広いので、あまり島と感じが本島から離れているためか、地域の人は団結力が強い気がします。また、韓国からの観光客がとても多くなっています。一方、昨年までは二年間は専攻で生活してました。専攻は車で一時間あれば島を一周できるくらい面積が狭く、山も低く、少し高台が上がれば海が見渡せ、島人の雰囲気を感じやすい所です。日本人観光客も多く、受け入れ体制も整っていると感じていました。五島に来て早三ヶ月が過ぎますが、五島の自然は対馬と専攻の中間の印象を受けていて、とても住みやすい所だと思ひます。どんな出会いがあり、どんな経験ができるか毎日が楽しみです。これから生徒たちと共に成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

「環境」



数学科 牟田 祐朗

こんにちは、数学科おび情報科の牟田祐朗です。五島には赴任とともに初めて訪れました。いったいどんな所なのだろうと、不安がたたくさんありましたが、生徒達と接するにつれて不安な気持ちはなくなり、今ではとても楽しい毎日を送ることが出来ます。五高生は沢山の課題や早朝補習、部活動との両立など、とても大変な高校生活を送っていることと思ひます。実は、私が高校生の頃は今の五高生と同じ高校生活を過ごしていました。部活と勉強の両立に、大変苦しんで思ひました。今でも覚えています。

見られる場所です。それらを見

「出会いの学び」



国語科 松屋真理恵

五島高校に着任し、三ヶ月が経ちます。私は、元々五島列島出身ということもあり、地元で高校で働けることを大変嬉しく思っています。五島高校の生徒は、非常に元気で何事にも真面目です。その素直な生徒達の期待に応えるべく、私も毎日身が引き締まる思いで奮闘しています。生徒が、快適な中にも緊張感をもって、ひたすら勉強がよい結果につながるよう、その環境の維持と発展に努めることが、私に与えられた使命だと肝に銘じて、全力を尽くしていく覚悟です。論語の中に「三人行えば、必ずわが師あり」という言葉があります。この言葉の通り、私達は多くの人と出会いながら、その一人一人に必ず何か学ぶことがあります。生徒達には教員、友人、保護者、地域の人々など周囲の様々な人から学び、感謝し、人間の成長に繋がっていると思っています。私もこの五島高校での出会いの中で学び、生徒達と共に成長していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

「努力は必ず報われる」今ま

「忘れたくない思い」



事務 大野 ゆか

新任者として、初めて五島の地に降り立ち、早三ヶ月が経ちました。当初は不安ばかりが募り、なかなか気持ちが前向きになれなかったというのが本音です。しかし振り返ると、この三ヶ月は決して過酷なことが多く、充実した日々を送っていると思ひます。このように思えるのも、五島の先生方や生徒との新しい出会いで得たものがあからずから、明るくパワフルという第一印象は今も変わらな

校内で挨拶を交わすたびに、シャ

「初めての高校」



実習助手 岩脇 真美

初めての高校勤務がスタートし三ヶ月が過ぎようとしています。慣れないことばかりで緊張している私を生徒達は明るく笑顔と元気の挨拶で迎えてくれました。そんな温かく素直な生徒達と、この歴史ある五島高校で学べることに大きな喜びを感じています。毎日が驚きと発見の連続で、とても充実しています。これからは中学校に勤務し、思春期真っ只中の多感な中学生と授業や部活動で奮闘する日々を送ってみたい。三年間で心身共に大きく成長して果立っていき中学生の姿も感動的でした。学が学意欲にあふれた高校生の姿も遅く、素晴らしいと感じています。

中学生から高校生へ、高校生から大人へと遅く成長をしていく生徒達の姿を応援しつつ、私自身も共に学ば成長していけるらと思ひます。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

「感謝の気持ちを忘れたい。」

でたくさんの人から、そう言われて育ってきました。しかし私自身が高校時代に体験し、学んだことは「努力は必ず報われる」とは限らない。ということ、言い換えるならば「挫折感」です。この体験から当時は、「努力をしても無意味なのではないか?」と自暴自棄になったこともありましたが、しかし、本当に大切なことは、「努力をしないと何も始まらない」ということだと今では強く感じています。自分の夢を、目標を叶えるために必要なのは、それはやはり努力だと思ひます。放課後や休日に懸命に自学に励む生徒を横目に、まだまだ努力が足りない、と反省を繰り返す毎日です。初めての五島生活、初めての教員生活がスタートして三ヶ月が経とうとしています。生徒と共に、喜びや達成感を分かち合いたい時は挫折感を味わいつつも、充実した日々を送っています。生徒が自分の夢や目標に少しでも近づけるように、生徒にエネルギーを送りつつ、私自身も日々「努力」を重ねていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

「努力は必ず報われる」今ま